**11月1日　株式会社TNPパートナーズ　代表取締役社長　呉　雅俊 氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

呉氏は「イノベーションは思い込みから始まる。定量的で客観的なものはすでにある」と仰っていましたが、この言葉はとても納得できました。数値で比較、分析できて、客観視できるものはある程度なじみがある、つまり似たようなものがあるからこそ可能なことです。イノベーション、すなわち、新たなものを生み出すには、呉氏も仰っていたように、既存の価値そのものではなく、それらを結びつけることで生まれる独創的なアイデアに対しての「組み合わせの価値」が重要であることを、今回の講義で学ぶことができました。これは起業やベンチャー企業の経営だけでなく、その他の企画といったアイデアが必要となる分野すべてに当てはまると思うので、この「組み合わせの価値」はしっかりと覚えておきたいと思いますし、その基となる既存の価値もより学ぼうと思いました。（経営・経営1年）

　呉さんのお話を聞いて、自分も大学生活の間にずっと一緒にいられるような友人が見つけられればいいなと思った。ベンチャーキャピタルの仕組みについてわかりやすく知ることができた。また、前回に続いたような形で、シリコンバレーと日本での起業の違いというのも改めて理解した。様々な分野でよく言われることであると思ったが、日本は失敗が許されない社会でアメリカは失敗を許して成長させる社会である。ベンチャーキャピタルは、そんな日本の社会を変えようとしていると考えられた。「ベンチャーキャピタルは夢を買う」という言葉はとても感動した。お堅い銀行などと違って自分の凄い考えや発想を受け入れてくれるところであると思った。ベンチャーキャピタルについてより深く知ることができたので、他の人にももっと知ってもらいたい。(経営学部国際経営学科　1年)

　企業をまず作るときに初めは、失敗することも十分考えられるし、リスクが生まれるのは当然であるということに同意するとともに少し安心した。そのリスクをどうマネジメントするかが問題であるというのはある意味当たり前であるし、そうしないと新しい事業で成功するのはとても難しいと思う。その点、銀行でお金を借りると失敗したときに自分が破産してしまう可能性が高いので、やはりベンチャーを支援する仕組みは大切だと思う。成功したときに得られるお金がとても大きいので、この「シリコンバレーの仕組み」は企業を育てる上でよくできたサイクルだと思った。Amazonの例で、赤字でも最初の数年間やり続けさせるアメリカはさすがだなと改めて感じた。(経営学部経営システム学科　1年)

イノベーションの源泉は主観的な思い込み。夢を共有できるやつを集めろ。

今回の講義は、ベンチャーの仕組み、銀行との違い、そして実際の企業を用いた具体例など、とても実践的な内容であった。しかし、上記の二つの言葉は、どちらかといえば気持ち、心構え、スピリットの部分。結局は一番大事なことは、自分の価値観を貫き、夢を持ってチャレンジできることなんだと思った。（経営学部・経営学科・1年）

私は、ベンチャー企業でインターンをしているので、ベンチャーキャピタルの仕事と仕組みについて、ベンチャー企業とファンドと市場の関係がわかりやすく図示されていて、とてもためになりました。起業するうえで、気合と根性、勘と度胸が必要だということにとても納得しました。世の中にはたくさんの起業家がいますが、私も世の中を変えられるほどの起業家の一人になりたいと思いました。また、私の地元でも地域活性の取り組みをしており、ベンチャーキャピタルと地域活性化についてとても勉強になりました。（経営・国際経営1年）

地域活性化とＶＣの話のときに、赤字でもベンチャーに挑戦して、イノベーションを推進することが評価され、そのまま続けていくことにより、新産業を創出させる事例がアメリカには多く、日本にはほとんどないということが印象深かった。また、どのような人材で働きたいかという質問に対し、「金に走る人間」ではなく、「夢に向かっている人間」を仲間にしたいという話も印象に残った。（経営学部・会計情報学科・１年）

とても興味深い講義でした。特に印象に残ったのは、経営者のすることはmanagementではなく、judgementだとおっしゃっていたことでした。今まで様々な方の講義でマネジメントの経験について教えて頂きましたが、それは一般の社員でも考えられることで、「決める」ということに経営者の大きな役割があるのだと考えさせられました。（経営・国際経営１年）

「変わったことをやる」という姿勢を本来的に貫くということは難しいだろうなと思いました。問い詰めていくと、「なぜその姿勢なのか」という問いは極めて哲学的です。夢を広げるという考え方や、定性的かつ主観的な価値観を軽視しない姿勢は甘えがなく、人間らしいという印象を受けます。やはり簡単な道を選ぼうとするならば、主観を排除し連動して苦しみから解放されるように、客観を主体とすることになります。しかし、そこには、熱というか人間らしい欲求がないです。本日の呉さんのお話は、俗にいえば感情論・精神論がふくまれておりましたが、私はそのような主観的思考と、科学の客観的な思考の統合を重視したいと思っており、呉さんの主観を尊重する人間性が好きです。（経営・経営システム４年）

ベンチャーキャピタルは、今までの講演者の方々からお話で多く出ていましたが、あまり知らなかったので、今回知ることができて良かったです。VCの社会的存在価値は“新産業”の創出、育成ということで、新産業を創るためのものとして、オープンイノベーションがどういうものかも知ることができました。知ることを増やすことで夢を広げるという言葉が印象に残りました。知識を増やせばやりたい事やなりたいもの（すなわち夢）が増えるというのは考えてみれば当然のことなのですが、“やりたい事を見つける”ということばかりに意識が向いており、そのような考えはありませんでした。今回の講義ではVCのことや企業のビジネスプランについて知ることができました。（経営・国際経営１年）

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

将来、大きくなるベンチャー企業は、仮設ストーリーがしっかりしていると言っており、計画の重要性を知ったため、何事も準備段階を大切にする。チャレンジや失敗を重ねて経験等を増やしていく。（教育人間科学部・人間文化・1年）

この講義を受ける前は、将来はただ良い企業に就職したいと漠然と考えていたが、呉さんの様々なお話により、自分からやりたいことや夢に思っていたことに対し、起業するというチャレンジをしてみたいと思った。そのためにも、必要な経営計画、ビジネスプランを立てられるように経営学の勉強をしたい。（経営学部・会計情報学科・１年）

講義の後半で呉氏が仰っていた「イノベーションのための3つのキーファクター」の「グローバル」・「モチベーション」・「アイデンティティ」について、まずは考えていきたいと思います。現代を生き抜くうえで「グローバル」は言うまでもなく大切なことですが、どうやって「モチベーション」と高く持っていくか、自分の「アイデンティティ」はいったい何なのかといったことはあまり重要視していなかったので、今後の大学生活で少しずつでも考えていきたいと思います。また、今ある既存の価値についてもより広く、より深く知る必要があるので、学んでいきたいと思います。（経営学部・経営学科・1年）

イノベーションは主観から生まれるというのが強く印象に残った。何かをやる時、自分の考えを曲げないで一度はやりきろうと思う。人と違った独創的なアイデアを生み出すために、物事を違う側面から捉える練習をしようと思った。何かチャレンジをするときに成功しやすいことを選ぶのではなく、たとえ失敗してもきちんとリスク管理ができていて、学ぶことができる“意義のある失敗”ができるかどうかを大切にしたい。(経営　経営システム1年)

**授業スタッフの感想**

今回の講義のアンケートを集計していて思ったことは、かなりの人が、「定量的かつ客観的ではなく、定性的で主観的なものがイノベーションに繋がる」という内容に触れていました。やはり、今までの学校教育で客観性こそが正しいかのような教えられ方をしてきたからだと思いました。自分自身、主観的と客観的では客観的の方がよりよいものだという認識がありました。しかし、今日の講演を聞いて、主観性の重要さに気付くことができました。もちろん、世間一般では客観的事実や見解の方が重視され、主観的なものは排除されがちかもしれませんが、それでも主観性は時として特異性を帯びるのだと学びました。主観性と客観性のバランスを考え、片方を謗ることなく物事を考えていこうと思いました。